



家庭数配布

—学校で学ぶ・家庭で生かす・地域を創る—

富士見台

平成27年度 7月号

学校だより

439号

練馬区立富士見台小学校

校長 眞瀬 敦子

<http://www.fujimidai-e.nerima-kyo.ed.jp/>

8:59:59 → 8:59:60 → 9:00:00

校長 眞瀬 敦子

このタイトル、何のことだかわかりますか？

普通は、8時59分59秒の次は9時ちょうどのはず。そうです、これは今日（7月1日）の午前8時59分59秒の次に挟まれた1秒、「閏秒」のことなのです。

実は私は、閏秒というのを知りませんでした。というよりは、前は3年前の2012年にあったそうなので、忘れてしまったのだと思うのですが、すっぱり記憶から抜け落ちていました。

「世界時」は、かつては地球の自転を基に決められていました。1周にかかる時間を24時間とし、1秒の長さを割り出していたのです。しかし、実は地球の一日の長さは一定ではなく、地球内部のマントルの動きや潮流による海水と海底との摩擦、エルニーニョ現象など様々な影響が合わさって、不規則に変化しているのだそうです。だから厳密に言うと、1秒の長さも長くなったり短くなったりしていました（!）。

人類の文明が進歩して、より正確を期すため、1秒を「セシウム原子が出す電磁波が91億9263万1770回振動する間隔（!）」（誰が見つけたんでしょうね?）と、1967年の国際度量衡総会で決めたのだそうです。

ところが正確に定めたが故に、自然の自転との誤差が出てきてしまったのです。

そこで、世界時を出す天文観測の専門家たちが集まってずれを計算し、「60秒を挿入」するか「59秒を飛ばす」かする必要があったことがわかったときは、半年前までに決定して、今回のように全世界で一斉に調整を行うのだそうです。

私はこの話を新聞で読んだときに、知的好奇心を刺激されて、心が浮き立つような気持ちを覚えました。オーバーな言い方かもしれませんが、「私はこの宇宙の一員なんだ!」と実感して、なんだか嬉しくなったのです。

私達は毎日ぐるぐる回っている地球の上に立っていて、その地球自体も、太陽の周りをものすごいスピードで回っています。もちろん私達は、そんな超高速で動く球体の上に暮らしているなどという自覚は全くありませんが、科学を追究してきた人類が、正確な「1秒」という時間

を割り出せるようになって、悠久の時を刻んでいる地球の自転にはかなわず、色々頭をひねって妥協策を見出しているなんて、とってもおもしろいと思いませんか？

何でも、原子時計を基にこの60年程をみると、地球の自転は遅くなってきており、累積で36秒のずれを生じているのだそうです。

朝起きて「おや、今日の地球は、周り方が遅いなあ…」（なんて、絶対に有り得ない感覚ではありますが）、そんなことを想像すると、何だかとても愉快的な気持ちになってきます。

壮大な宇宙の中の本当にちっぽけな私達人間。でも、そのちっぽけな人間の一人一人が、宇宙の中で笑ったり泣いたりしながら、一生懸命生きていると思うと、私には、私達の命の一つ一つが何だかとても健気で、愛おしいものに思えてならないのです。

話は宇宙から地球に戻りますが、今日本は、あちこちで火山活動が活発化し、小噴火が起きたり、地震が起きたりしています。

浅間山もその一つで、地球の歴史から見れば小さな、そして常に起こっていることかもしれませんが、13日から6年生と移動教室に行く身にとっては、噴火の状況が思いやられるところです。（しかもこの子たちは5年生の時の移動教室を、台風の影響で1日減らしています）

でも、火山国の日本はそのお陰で温泉も湧き、風光明媚な景色も得られ、沢山の恩恵を受けてもいるのです。慈愛に満ちた自然、でもその中には人知の及ばぬ驚異的な力も秘めていることをしっかりと学びつつ、是非子供たちと安全で楽しい移動教室に行きたいと、心から願っております。

ユーチューブについて

昨年に引き続き、高学年の児童が自分たちの仲間の様子をユーチューブにアップしてしまうということがあります。本校では、様々な危険があるため、児童がユーチューブ等を使うことを禁じております。

もし、ご家庭の方針で子供にこのようなメディアの使用を許可なさるのでしたら、アップする子供だけでなく、その保護者の了解を得るようお願い致します。